

(写)

春日部市本庁舎整備審議会 審議経過と内容及び主な意見

1 審議経過

当審議会は諮問を受け、平成26年9月から平成28年5月まで9回にわたり審議会を開催した。各委員は公平不偏の立場を堅持しつつ、妥当な結論を得るため、様々な角度から厳正かつ慎重に審議を重ねた。

- | | | |
|-----|----------|---|
| 第1回 | 平成26年 9月 | ・春日部市庁舎の概要について
・春日部市本庁舎整備審議会の審議事項について |
| 第2回 | 平成26年10月 | ・春日部市庁舎の現状と課題の把握について
・本庁舎移転先の検討について
・市民アンケートの実施内容について |
| 第3回 | 平成26年11月 | ・本庁舎整備の基本方針及び基本理念について
・本庁舎移転先の検討について
・市民アンケートの実施について |
| 第4回 | 平成27年 2月 | ・市民アンケートの集計結果について
・本庁舎整備基本構想原案の検討について
・本庁舎移転先の検討について |
| 第5回 | 平成27年 5月 | ・本庁舎整備基本構想（原案）
・移転候補地見学 |
| 第6回 | 平成27年 7月 | ・本庁舎の機能・規模について
・敷地の利用計画について
・整備スケジュールについて
・本庁舎の移転先について |
| 第7回 | 平成27年 8月 | ・前回の審議内容の確認
・移転候補地の検証
・機能・規模の検証
・事業方式の説明 |
| 第8回 | 平成27年10月 | ・移転先の絞り込みについて
・本庁舎整備基本計画（原案）について |
| 第9回 | 平成28年 5月 | ・（旧）西武春日部店敷地の調査結果報告について
・本庁舎整備基本計画（原案）の修正点について |

2 審議内容

当審議会は、春日部市総合振興計画の基本理念の一つとして掲げる「市民主役」を念頭に、「災害時においては、市民の生命及び財産を守るための拠点施設となること」「市民の共有財産として幅広く市民に親しまれ、市民ニーズに的確に応えられる行政機能の拠点施設であること」を勘案し審議を行った。

ここでは、主な意見を諮問事項ごとに整理し、以下に特記する。

(1) 本庁舎整備基本構想について

① 審議の方向

現本庁舎の課題を、「安全性」、「利便性」、「経済性」、「執務環境」から確認し、整備の方向性を検証し、本庁舎整備の基本理念、基本方針の審議を行った。

新本庁舎の移転先については、地方自治法第4条の規定に基づき、「安全性」、「交通の利便性」、「周辺環境」、「法令」、「早期実現性」、「経済性」の6項目から市内全域を対象とし検証を行った。

なお、これらの検討にあたっては、市民ニーズに沿った基本構想とするため、本庁舎移転建て替えに関する市民アンケートを実施した。

② 主な意見

基本方針について

- ・ 基本構想の検討では、現状の課題からどのような庁舎を整備するか導いたが、都市計画（まちづくり）の視点から求められる市役所の機能の検討も必要であると思う。

移転先について

- ・ 新たなバス路線や道路を造らない、土地買収の必要のない場所に絞った方が良い。
- ・ 春日部駅周辺のまちづくりとして、東口は歴史や伝統の継承と文化発信の地域として、西口は市民の安心・安全を担保する医療、福祉、防災拠点の地域として役割を持たせることは意味があると考え。以上のような理由で、現市立病院敷地に建設することが適当と考えるが、様々な視点から検討する必要があると思われるため、評価基準を設け、現市立病院敷地と文化会館敷地それぞれに建設された場合の比較検討を行い、メリット・デメリットの整理が必要であると考え。
- ・ 経済性のみを優先して決定すべきものではなく、将来を見据えて検討すべきものと考え、春日部駅エリアの文化会館を候補地として検討すべきではない

か。

- ・ 市庁舎は耐震ということを考えたときに、南海トラフの地震が想定されるなかで、今の市役所では地震が来ると崩れてしまうことが考えられる。防災という視点から考えると時間がないと思う。今の庁舎をそのまま直すよりは、現市立病院の跡地に移す形が時間的にも費用的にも効率的であると考えている。
- ・ 審議では、災害時の拠点ということを最初に重要だと捉えて話を進めてきた。市民アンケートでも災害時の拠点として重要だという意見が90パーセント以上ある。それからすると、どちらの移転先が、というのはなかなか決めるににくい、現市立病院敷地の優位性が高いと思う。

③ 結論

- ・ 基本理念を「人に優しく 災害に強い 市民に親しまれる庁舎」とし、基本方針を、「人に優しい庁舎」、「災害に強い庁舎」、「環境・経済性に配慮した庁舎」、「機能的で効率的な庁舎」、「春日部市にふさわしい庁舎」とした。
- ・ 新本庁舎の移転先については、市内全域から3つのエリアに優位性が認められ、このエリアの8か所の敷地について検討した結果、現市立病院敷地と文化会館敷地に優位性が認められた。
- ・ 新本庁舎の移転先として、優位性の認められた2か所の比較においてはさまざまな議論が交わされたが、交通の利便性やインフラ整備については甲乙つけがたいものの、安全性や経済性の観点では現市立病院敷地に優位性が認められるため、現市立病院敷地を最有力候補地とした。
- ・ しかし、「経済性のみを優先して決定すべきものではなく、将来を見据えて文化会館敷地を検討すべきではないか」との意見があったため、この時点で一つの候補地に絞らず、文化会館敷地を次点の候補地とした。

(2) 本庁舎整備基本計画について

① 審議の方向

春日部市が取り組んでいる「まちづくり」など既存の計画を確認したうえで、庁舎の機能・規模、空間構成、整備スケジュール及び移転候補地の検証を行った。新本庁舎の移転先の検証にあたっては、現市立病院敷地と文化会館敷地の2か所について基本構想検討時における6項目の比較項目に加え、上位計画との整合性（まちづくりの視点）、さらに掘り下げた調査項目、新たに視野を広げた項目について検証を行った。

なお、検証の最中に西武春日部店が撤退するという状況の変化が発生した。このため慎重な審議会運営の観点から、「西武春日部店が移転候補地として検討に値するものであるか」を判断するための資料収集調査を行った。

しかしながら、調査の過程において西武春日部店が匠大塚（株）により新たに店舗経営されることが平成28年4月20日に発表されたことから、検討に値しないことが判明したため主な調査結果の報告のみとした。

② 主な意見

整備スケジュールについて

- ・ 年々資材が高騰していると聞いたが、少し高騰の収まった時期に設計施工をしたほうが良いのではないかと思う。
- ・ 4月14日に発生した平成28年熊本地震の影響で、複数の自治体の庁舎が大きな損傷を受け、災害対策本部として使用できない状況となった。春日部市においても地震災害は、いつ起きてもおかしくない状況であり、その際、市民にとって最も大切な災害対策ができない状況に陥ることだけは避けなければならない。それを考えると資材や労務賃金の高騰等の懸念はあるが何をさておいても早期に市庁舎建替えに着手することが必要である。

経済性について

- ・ 現市立病院東棟は、十分再利用が可能であり活用すべきと考える。
- ・ 新本庁舎の機能の審議では、事業費を切り離して現市役所本庁舎の現状から課題を積み上げた。規模を検討するにはコンパクトな庁舎を目指してまとめていく必要がある。

移転先について

- ・ 新本庁舎の移転先について、市や市議会に対しても東口地域、西口地域の双方から要望がでていと聞いている。審議では現市立病院敷地に優位性が見られるということだが、東口地域の発展も、多くの市民が望んでおり、結果として要望が出ている。今後、市の方でも東口地域の活性化に向けた方策をぜひ検討していただきたいと思う。
- ・ この議論の始まりは、現市役所の耐震化であり、時間がない。そして、お金もなるべくかけないとすると、市立病院敷地の優位性も納得がいく。それでも東口には活性化が確かに必要である。東口に庁舎を持っていったとしてもすぐに活性化するわけではないと思う。新庁舎がどちらに決まっても、東口の活性化をお願いしたい。

③ 結論

- ・ 新本庁舎の整備方針を「コンパクト化」、「機能の充実」、「現市立病院東棟の活用」とした。
- ・ 新本庁舎の移転先の検証にあたっては、8つの項目を設定し比較を行い、上位計画との整合性（まちづくりの視点）において災害に強いネットワークを構築することができることや、早期実現性の観点において災害時の拠点として早期に事業が進められることから、最有力候補地である現市立病院敷地の優位性を改めて認めた。

3 おわりに

市役所本庁舎は、災害時には市民の生命を守る拠点となり高い耐震性、併せて災害後、業務の継続が求められることとなる。しかし、現本庁舎は東日本大震災後に耐震診断を実施し、その結果、災害時の拠点として耐震性が不十分な状況になっていることから、本庁舎整備を早期に実現させることが急務であると考えます。

ただし、建設コストの上昇が著しいことから社会情勢を注視し、できる限り既存の建物を活かした計画とし、少しでも財政負担を軽減できるよう、整備に取り組んでいくことも必要である。

新本庁舎の移転先の審議にあたっては、まちづくりの視点からも議論し、審議過程では春日部駅東口の活性化が求められているとの意見が上がった。今後、市が考える中心市街地の活性化を一層推進されたい。

最後に、現本庁舎は春日部市の発展とともに半世紀近くにわたり、市の象徴的な存在として使われてきた。市民の記憶に残る可能性が高い建築の一つであることから、本庁舎建て替えにあたっては、こうした市民心情にも配慮し整備を進めていただきたいことを申し添える。